3rd World Centenarian Initiative
ALS 病治療戦略国際シンポジウム
ーより良い QOL と予後を目指した新規治療法の開発ー
International Symposium on Amyotrophic Lateral Sclerosis
– Giving new hope: novel therapies towards a cure –

ご案内

謹啓 時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

2 月 19 日（金）大阪において、3rd World Centenarian Initiative 「ALS 病治療戦略国際シンポジウムーより良い QOL と予後を目指した新規治療法の開発ー」を下記の通り開催いたします。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は運動ニューロン病の 1 つで、高度の全身の筋の萎縮と麻痺を特徴とする進行性の疾患です。運動ニューロンは脳からの命令を筋肉に伝える働きをする神経系で、脳にある上位運動ニューロンからのメッセージは、脊髄にある下位運動ニューロンに伝達され、そこから末梢神経を通して特定の筋肉に伝達されます。ALS では、これら上位と下位の運動ニューロンが徐々に変性し死滅することにより、筋の萎縮と筋力低下が起こり、最終的に全ての随意筋が障害されます。その結果、手足、体幹を動かす能力を失い、進行すると呼吸筋、嚥下や発語を司る喉の筋肉を含む全身の筋肉が麻痺してしまいます。

ALS は発症からの進行が速く、原因不明で確定診断のマーカーとなる検査が確立されておらず、有効な治療も確立されていません。ALS に関する研究の進展が望まれています。

このような状況の中、公益財団法人先端医療振興財団 臨床研究情報センター（TRI）では、より良い QOL と予後を目指した ALS の新規治療法の開発に焦点を当てて本シンポジウムを企画しました。海外から招聘した研究者と我が国の研究者で基礎研究と臨床研究の内容・成果を共有し、国際的な協力及び関係構築を行うことで、ALS に関する基礎的臨床的研究の発展に寄与することが本シンポジウムの狙いです。

5 年後、10 年後の近い未来に、ALS という手強い疾病を制圧できる可能性を示す光が見えてくることを期待しております。日本と海外からグローバルに研究者が集い、その叢智を集めることによって、共に一步を踏み出したことを皆様と共に実感できるシンポジウムとさせて頂きたくどうぞ奮ってご参加のほどお願いいたします。

（お申込み方法等の詳細は、<http://www.tri-kobe.org/> をご覧ください。）

謹白

3rd World Centenarian Initiative
ALS 病治療戦略国際シンポジウム 代表世話人
鈴鹿医療科学大学 看護学部 教授
葛原 茂樹